花一会図書館便り

12・1月号　花一会図書館 作成/令和7年12月30日発行

【TEL&FAX】
0136-57-6085

花一会 HP

Facebook　Instagram　X（旧 Twitter）

第21回「郷土探索への道　歴史捜索・探索編⑥」

2026 年の干支は「午（うま）」です。かつて蘭越でも馬は農耕馬として活躍し、町民にとって身近な存在でした。今号では、蘭越の馬に関する施設や資料をご紹介いたします。

ふるさと学習館の「馬小屋」

名駒地区にある「蘭越ふるさと学習館」では、旧名駒小学校の教室を活用し、郷土資料を展示しています。昔の馬小屋を復元したコーナーでは、実際に使用していた鞍や蹄鉄などの馬具が展示されており、当時の暮らしを感じることができます。

蘭越ふるさと学習館
＜住所＞蘭越町名駒町（旧名駒小学校）
＜開館＞見学希望があった時のみ
＜問合せ＞教育委員会生涯学習課
（0136-57-5030）

※蘭越ふるさと学習館は、令和８年度に蘭越中学校へ移設されます。

ばん馬競技大会

蘭越でのばん馬大会は、昭和22(1947)年に開催された「第１回中目名ばん馬競技大会」が最初でした。一時は馬 50 頭以上、観客も 1,200 人を超え盛況でしたが、昭和 58 年頃を最後に行われなくなりました。（参考資料：『新蘭越町史』）

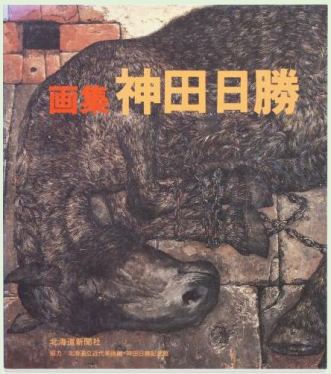
右の写真は、昭和 54 年のばん馬大会を撮影したものです。（町民の方より寄贈）

昭和 54（1979）年８月 24 日／尻別川河川敷

馬と人 ～馬のブックガイド～

花一会図書館にある馬関連の本をご紹介します

『画集 神田日勝』神田 日勝（北海道新聞社）

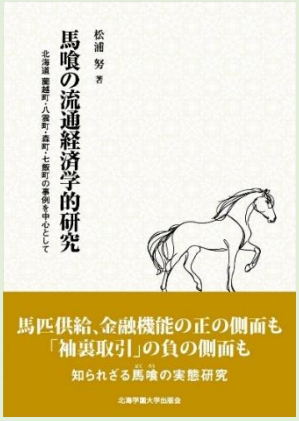


馬の絵といえばこの人。北海道を代表する画家です。農業をする傍ら独学で油絵をはじめた日勝は 1970 年、制作中に病に倒れます。未完となった後ろ足が描かれていない《馬（絶筆・未完）》は、皆さん一度は見たことがあるのではないでしょうか。

『ザ・ロイヤルファミリー』早見 和真（新潮社）

10 月に妻夫木聡主演でドラマ化されて記憶にも新しいこの作品。ワンマン社長馬主とその家族、そして一族に付き添い続けた秘書の波乱の 20 年間。感涙エンターテインメント長編です。山本周五郎賞、JRA 賞馬事文化賞を受賞。

『馬喰の流通経済学的研究 北海道 蘭越町・八雲町・森町・七飯町の事例を中心として』松浦 努（北海学園大学出版会）



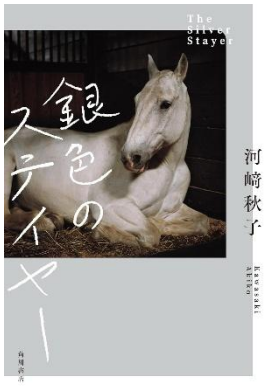
「馬喰（ばくろう）」とは、牛馬の売買や仲介を行う商人のこと。農民を騙して儲けていたと言われる馬喰、その実態とは…？蘭越町の事例も掲載されている、新たな郷土史です。著者は蘭越町字黄金出身。

『はるふぶき』加藤 多一/文、小林 豊/絵（童心社）

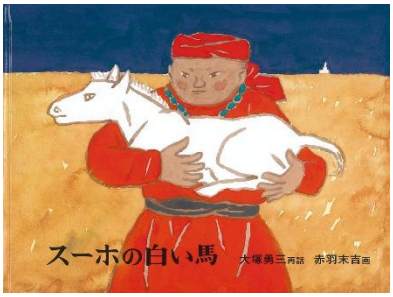
病に伏せている母に代わり、はじめてひとりで町へ出かける少年マサル。馬のアオの引くソリに丸太を積んで。帰り道、空は急に吹雪出し、マサルとアオはとうとう動けなくなる。戦後間もない時代のとある一日を描いた絵本は、北国の自然の脅威をしんしんと伝えてくれます。さて、結末は……。

『ウマと話すための 7つのひみつ』
河田 桟
（偕成社）

『ウマに恋する 競馬ガイド』
三浦 凪沙
（小学館クリエイティブ）



『銀色のステイヤー』
河崎 秋子
（KADOKAWA）



『スーホの白い馬』
大塚 勇三/再話、赤羽 末吉/画
（福音館書店）